

児童虐待の早期発見のためのチェックリスト(教育関係者用)

このチェックリストは、児童虐待を発見するためのポイントを示しています。児童虐待の早期発見のために活用してください。

このチェックリストは、あてはまる項目の多少によって虐待かどうかを判定するものではありません。

このチェックリストは、全ての子どもを対象に一律に点検するためのものでもありません。

それぞれの項目の中には、虐待による心因反応ではなく、障害やその他の要因によるものがありますので、チェックに当たっては十分注意することも大切です。

1 子どもの特徴

項目	主 な 状 況
体や身なり・心の様子	顔や腕、足などにいくつもの傷やけが、やけどのあとがある。
	体重や身長の伸びが悪いなど、発育不良が見られる。
	食べ物への執着が強く、与えられるとむさぼるように食べる。
	季節にそぐわない服装をしていたり、衣服が破れたり、汚れたりしている。
	衣類を着替えるとき、異常な不安を見せる。
	こわがる、おびえる、急に態度を変える。
	表情が乏しく、受け答えが少ない。
保護者との関わり方	警戒心が強く音や振動に過剰に反応し、手を挙げただけで顔や頭をかばう。
	保護者の前では硬くなり、極端に恐れている。
	子どもと保護者の視線がほとんど合わない。
	不自然に子どもが保護者に密着している。
友だちとの関わり方	保護者といるとおどおどし、落ちつきがない。
	威圧的、攻撃的で乱暴な言葉遣いをする。
	落ちつきがなく、過度に乱暴だったり、弱い者に対して暴力をふるったりする。
	はげしいかんしゃくを起こしたり、かみついたりするなど攻撃的である。
学習状況	友だち関係がうまくつづれない。
	友だちに食べ物をねだることがよくある。
	理由のはっきりしない欠席・遅刻・早退が多い。
問題行動・その他	忘れ物が多い。
	急激な学力低下をおこしている。
	下校時刻が過ぎても家に帰りがたがらなかったり、家出を繰り返したりする。
	金銭の持ち出しや万引きなどの問題行動を繰り返す。
	小動物をいじめる。
	年齢に不相応な性的な興味・関心をもっている。

2 保護者の特徴

項目	主 な 状 況
子どもとの関わり方	子どもに対して、ことあるごとに激しく叱ったり、ののしったりする。
	子どもを抱いたり、話しかけたりしない。
	子どもが病気でもあえて病院に連れて行かない。
学校との関わり方	欠席の理由がはっきりしなかったり、連絡がなかったりする。
	けがについての説明が不自然である。
	子どもに関して言っていることに一貫性がない。
	話し合いや面談を拒む。
家族の状況	体罰や年齢不相応な教育などを、「しつけ」「家庭の教育方針」などと正当化する。
	絶え間なくけんかがあったり、家族への暴力がある。
地域での状況	必要な予防接種や健診を受けさせていない。
	近所づきあいがほとんどない。